

クオリアダイブ株式会社 ダイビングを活用した 人材育成のための研修を実施

事業内容

教育研修プログラムの企画・開発・運営
マリンスーパースポーツ事業(ダイビングの体験・講習・水中ツアー開催)

ダイビングといえば、観光立県・沖縄の主要なマリンスポーツのひとつ。海の中の風景や生物とのふれあいを楽しみ、水の中に浮遊するという非日常を体験するというレジャー産業である。

しかし、その非日常的な海の世界は、楽しみや感動だけではなく、「人」が「人」と真摯に向き合える世界で



布垣明氏

もある。海の中では、道具(物)を使わないと「人」は、呼吸する事も、まわりを見る事もできない。重力、景色、音、温度、生態系など、あらゆる意味で「人」には不自由な世界。地上とは違う世界であり、その世界を体験するには、知識とルール、判断力や注意力も必要とされる。日々の生活では当たり前なことが、通用しない世界であり、地上では何でもないことが、水中世界ではルールを無視すると多大なリスクを招く。

あいさつをする・素直になる・話を聞く・約束を守る・思いやる・笑顔や感動等、「人として」とても大切な基礎が問われている現在に於いて、幼い頃に培われた人間形成の基礎的な部分は、大人になった今、陸の上では、それらを取り戻すためには限界にきているのではないかと感じている。

母なる大地、海。言葉が通じない環境下で「目と目を合わせる」。不自由な環境下で、「手と手をつなぐ」。「人」は自分の無力さを感じた時に、はじめて真剣に、「人」と「人」が深く向き合うことができる。クオリアダイブは考え、安全に海の中を体験できるダイビングのプログラムを活用した人材育成プログラムを構築した。

プログラムは、「ヒト」の原点である海に還り、「人」の原点である学びの中から、実社会で、失われつつある「人間力」や「人間らしさ」を培うことに主眼を置いている。4～5日間の日程で、「裸になって」「まず聴いて」「手をつないで」「耳を澄ませて」「眼を見て」「さあ笑って」というテーマに基づき、知識の学習や、清掃活動を通じ、ルール遵守の大切さや環境保護。水の中での体験で、コミュニケーションや支え合う必要性、信頼する事の大切さ。また、救急法の講習なども取り入れ、生命の尊さ等を自らの体験によって実感してもらい、感謝・感動を通して「人間力」を高めていくようにカリキュラムを組んでいる。

現在の進捗状況

実社会人【次期管理者候補、現役職者、一般社員】及び、新卒内定者(学生)を誘致し、トライアル研修を実施。約1カ月後に

クオリアダイブ株式会社
代表者：田中正次(事業責任者 布垣明)
設立：平成18年7月7日
資本金：1000万円
住所：沖縄県那覇市小禄1831-1-4階
TEL：098-852-8131 FAX：098-852-8132
SHOP TEL：098-868-0166 FAX：098-868-0168
HP：http://www.qualiadive.com
E-mail：Okinawa@qualiadive.com

活用した支援メニュー

- ・インキュベートルーム入居
- ・事業進捗に関するアドバイス
- ・県内関連機関の紹介

参加者からアンケートをとり、研修前と後、職場内での効果を検証した。このフォローアップアンケートでは、下記の通り、研修での体験が実生活に与えた影響の大きさを評価する声を確認された。

- ほめることと指摘することを意識して行うようになった。
- 素直であること、謙虚であることの大切さを感じた。
- 物事に取り組む姿勢・意識が強くなった。
- 環境に対する意識を心掛けるようになった。
- あいさつの大切さを学び相手に伝わるよう心掛けている。

このトライアルなどを通じ、人材育成プログラムの構築には、実社会や企業、組織、個人などさまざまな観点から社会が抱える悩みや問題点を検証していくことが重要だと認識できた。そして、社会がもっとも必要としているもの(欠けているもの)は、モラルやコミュニケーション、積極性など、「人」としての基本であることをクオリアダイブは「発見」した。そこに焦点を当て、社会的意義のある研修プログラムの開発を行っている。

今後の課題と展望

沖縄という環境と水中世界というステージで「人間らしさ」を培う研修プログラムを再構築していく必要がある。4月以降はその研修プログラムを商品化し、企業の合宿型人材研修や教育機関への応用も検討し、働きかけを行っていく。それと同時に、その効果の継続的な検証も進めていく。

課題は、ダイビングの指導ができる人材は豊富だが、人材育成プログラムにおいて研修生を指導できる人材の確保。指導者を育てるためのカリキュラムづくりも本格化し、インストラクター(指導者)の育成、モラルの向上、組織化を目指す。



海中での研修風景

インキュベーションマネージャーのひと言

一人の経営者が経験した『ダイビング』から事業化のヒントを得たビジネスモデルである。

海の中での体験は、これまでの自己啓発にない、『自分自身の発見』と『人としての基本』を得ることに気づき、現在社会に不足がちな人間関係を思い出させる機会を提供する。

マリンスポーツが盛んな沖縄の特性を活かし、ダイビングを活用した人間教育プログラム(人間学)での体験を通じた、カリキュラム構築を日々検証している。

旅行商品との組合せや宿泊、実施施設との協業モデルなど県内既存企業との連携も構築し、安定した品質で、安全なプログラム提供を目指したインストラクター育成及び組織化を目指す。